

みどりの 東北



MIDORI NO TOHOKU



早春の岩手山鬼ヶ城稜線より、秋田駒、鳥海方面を望む（東北森林管理局登山同好会提供）

[CONTENTS]

- 特集 白神山地科学委員会を開催 [計画課]
- 美しい森林づくり 木のぬくもりと木材利用をPR [三陸中部森林管理署]
- 我が署の名所 蔵王 御釜^{おかま} [仙台森林管理署]

Vol. **121**
東北森林管理局

白神山地科学委員会を開催

計画課



黒川局長の挨拶

3月8日(土)、東北森林管理局において、第8回白神山地世界遺産地域科学委員会が開催されました。

本委員会は、白神山地の遺産価値を保全し、科学的知見による順応的保全管理を行うため、平成22年に白神山地世界遺産地域連絡会議への助言機関として設置されたものです。

会議の冒頭、黒川東北森林管理局長から「昨年改定された遺産地域の新管理計画を踏まえ、モニタリングで森林の変化を的確に把握し、生態系の順応的な管理に役立てていく。また、二ホンジカや入山利用への対応については、白神山地の保全管理や秩序ある利用を進める上での課題となっており、科学委員会での議論を経て具体的な方向性を整理していきたい」との挨拶がありました。

当日は、植物生態学、温暖化影響評価、野生生物管理学、応用地形学など各分野の専門家の委員7名が出席し、中静透委員長(東北大学大学院教授)の議事進行の下、次の議題について意見交換が行われました。

モニタリング

実施機関から、モニタリングの実施状況と26年度計画を説明しました。委員からは「イヌワシ同様、クマガウも行動圏はかなり広いので、過去に遺産地域内で確認された所に加えて、周辺地域での記録についても情報を集めておいてほしい」「標高の違う所での積雪深が、温暖化によってどう変わっていくのかは重要なデータなので、標高入りの調査位置図を次回資料に追加してほしい」などの意見が出されました。

二ホンジカの現状及び対策

遺産地域周辺におけるシカ情報マップ等を示し、地域連絡会議から「白神山地世界遺産地域二ホンジカ対策方針(骨子案)」を説明しました。

委員からは「モニタリングだけではもう遅い時期だ。マネジメントとそれを担う人材育成を考える段階ではないか」「定点カメラが45台では足りない。100台でも少ないくらいだ」「骨子案には、情報を集める体制は書かれているが、どういう影響低減策をとり得るのかを打ち出さないと、対策方針としては不十分」「遺産地域・監視区域・周辺地域を区分したのはいいが、エリア別の具体策を早急に検討すべき」などの意見が出されました。

入山利用への対応

地域連絡会議から、これまでの入山利用では世界遺産の普遍的な価値に影響を及ぼすような大きな課題は見受けられないとした各種データを示し、「核心地域への入山の取扱いに関する今後の検討方針(案)」を提案しました。特に、原則入山禁止としてきた秋田側の核心地域について、新たにモデルの利用を試行する検討を始めることを諮りました。

委員からは「核心地域内を巡視・案内できる人材の不足は厳しい問題。白神を守るためには人の手が必要であり、地域の人の手の知恵や技術、経験(民俗知)を引き出しながら国と地域が一体となって白神を守っていく動きを作れたら良い」「希少種を守るという前提で提案事項を



委員会の様子

進めても良いと思う」「青森側は入れるのに秋田側は入れないというのは合理的に説明できない。どういうルートだったら入山可能かといった検討を始めて良いのではないかと」「自然環境への影響を考慮し、きちんとしたガイドをつけて利用していくと良い」などの意見が出されました。

最後に、委員長から「遺産地域内の指定ルート入山者数で見ると、大きな影響は出ていないようだ。連絡会議側には、モデル的な入山試行案を次回提案してほしい。委員会として、その試行案の方法を考えていくというところで検討方針(案)を了承する」との総括を頂きました。

委員の後任

昨年退任された浅沼晟吾委員の後任として、堀野眞一氏(森林総合研究所鳥獣生態研究室長)を新委員に選任することが了承されました。

当日は多くの報道機関も来場し、委員会の様子が報道され、白神山地への関心の高さが感じられました。

今後は、委員会で頂いたご意見を十分参考とし、白神山地における保全管理や秩序ある有効利用に向けた施策を関係機関と連携して進めていきたいと思えます。

美しい 森林づくり



木のぬくもりと木材利用をPR

当署は岩手県沿岸南部に位置し、3市2町の国有林約29千haを管理しています。三陸沿岸は複雑に入り組んだリアス式海岸となっており、三陸復興国立公園に指定され観光名所となっています。

また、五葉山周辺の山岳林は、五葉山県立自然公園の指定を受けてレクリエーション等の場として広く利用されています。

東日本大震災から3年が経過しましたが、被災地域の住民の方々が自然とふれあったり、木のぬくもりを感じながら安らいでいただける場の提供など、被災市町等と連携して復興・再生に向けて職員一丸となって取り組んでいます。

日向ダム湖畔の集い2013

平成25年8月3日（土）、釜石市甲子町の県営日向ダム周辺において「日向ダム湖畔の集い2013」が3年ぶりに開催されました。

東日本大震災の影響で一時中断していましたが、森と湖に親しむ旬間行事の一環として行われたこのイベントには、夏休み中の親子連れなど約500人が訪れ、ダム堤体内の見学やボ-

トでの湖面パトロール、ニジマスのかみ捕り等が行われ、自然を満喫している様子でした。当署からは、職員4名が参加してスギの間伐材を使用した木工教室で、巣箱や椅子、プランターカバーの製作補助を行いました。



アイス作りに熱中する子ども達



プランターカバーを作りました

木工教室には約60組の親子連れが次々に訪れ、盛況のうちに終了しました。

第29回気仙スギまつり

平成25年10月27日（日）、「第29回気仙スギまつり」が住田町で開催されました。気仙スギまつりは気仙2市1町（大船渡市、陸前高田市、住田町）の持ち回りで実施しており、同時開催となった「すみだ産業まつり」と併せて多くの来場者で賑わいました。

気仙スギまつりには、気仙地域の良質材をPRし、森林・林業に理解を深めてもらうようと、当署や大船渡農林振興センター、気仙地方森林組合、チェンソーアートの「杉遊会」などが参加しました。

開会式では、多田住田町長より「沿岸地域の復興を願うために、まつりで氣勢を上げたい」と挨拶があり、テープカットと餅まきを行いました。

当署では木や自然にふれあう体験コーナーとして、五葉山周辺や身近にある樹木を10種類用意し、特徴などのヒントをもとに樹木名を解答してもらう樹木当てクイズ、輪切り材などを使っ

三陸中部森林管理署

た木工細工教室を行いました。樹木当てクイズに参加した小学生は、「ヒントを見ながらやったけど難しい」と、真剣に見比べながら解答用紙に記入していました。また、木工細工教室では親子連れや小学生たちが次々に訪れ、動物を型どったものなど、思い思いの作品作りを楽しみ姿が見られました。

そのほか、今年の8月に完成予定の住田町役場新庁舎に使用される地元産のスギ象徴木（長さ約9m、直径約70cm）を磨くコーナーには多くの町民の方々が参加していました。

当署では、国有林で実施している各種事業を紹介する現場見学会、森林散策など国有林を身近に感じていただけるような取組を今後も行っていきます。



木工細工を楽しむ親子連れ

各地からの たより



- 三陸北部森林管理署
- 東北森林管理局・上小阿仁支署
- 津軽白神森林生態系保全センター
- 朝日庄内森林生態系保全センター

三陸北部森林管理署 新庁舎完成

三陸北部森林管理署

平成23年3月11日、東日本大震災の大津波で流出した跡地に新庁舎が完成し、平成26年3月14日（金）、三陸北部森林管理署新庁舎の披露式を地元関係者外40名の出席のもと開催しました。

新庁舎は東日本大震災の大津波を教訓に1階を鉄筋コンクリート造のピロティ形式とし、2・3階をカラマツ大断面集成材による木造の混構造で総



庁舎全景

延床面積508.30㎡、2階は事務室、署長室、会議室、書庫等、3階は宮古森林事務所等とし、周辺の住居に馴染むように勾配屋根を取り入れました。



2階大断面集成材

1階玄関部分の外壁はスギ板張りとし、森林管理署の木のイメージとピロティの重苦しさを緩和するように配慮しました。

2階部分には、東から南側までベランダを設置し、建物のアクセントとすると共に、津波に対する防災を意識させるデザインとしました。また、外部から昇降できる外部階段を設け、素早く避難が出来る安心感を持たせたデザインとしました。



2階事務室

使用木材については、国産間伐材、合法性、持続可能性が証明されたものを基本とし、大断面集成材についてはカラマツ、その他構造材はカラマツ・スギ・ナラ・タモを使用するなど、木のぬくもりをふんだんに感じさせるものとなっています。

また事務室には、木質バイオマス利用を促進するためベレットストーブを設置、サッシ・照明についても、「地球温暖化防止対策促進法」に準拠し、CO₂等の削減及び省エネルギー化のため断熱サッシ・ペアガラス及び照明器具はLEDを使用しています。

披露式に出席した局長からは「新庁舎は、先に完成している隣接する公務員宿舎を含め地域の方々の災害時の一時避難場所としての機能、また機能的で快適なデザインが採用され、来訪者の方々にも心地よく過ごして頂ける。新庁舎の完成を機に、一層気持ちを引き締めて、効率的な業務運営に努め、東日本大震災からの復旧・復興、多様で健全な森林の整備として、林業・木

材産業の再生に積極的に取り組んで参る考えである。」と挨拶がありました。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

公益的機能維持増進 協定の締結

東北森林管理局・上小阿仁支署

3月7日（金）、東北森林管理局では初めてとなる「小沢田地域公益的機能維持増進協定」を北秋田市在住の森林所有者藤島二三夫、智子さんと締結しました。

この制度は、平成24年の国有林野の管理経営に関する法律等の改正により、国有林の有する公益的機能の維持増進を図るために新たに設けられたものです。国有林に隣接・介在する民有林で、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者による施策が十分に行われず、公益的機能の低下がみられる森林を対象として、森林所有者と森林管理局長とが「公益的機能維持増進協定」を結ぶことで、国が民有林と国有林の一体的な整備・保全を図ることとするものです。

協定の対象となる森林は、米代東部森林管理署上小阿仁支署管内小沢田地区にある民有林3.34ha、国有林27.34haです。当該箇所は、国有林に取り囲まれて民有林での集約化が進まず、これまで無間伐であったところです。協定期間は平成26年3月7日～平成28年3月31日までとし、今後、国が一定割合を負担して民有林も含めて森林整

津軽白神森林生態系 保全センター活動展

津軽白神森林生態系保全センター

当センターでは、2月22日と23日に青森市沖館市民センターで、また3月7日から10日には青森県つがる市にあ



協定締結者の藤島さん（右）と黒川局長（左）

備（搬出間伐）を行うことにしています。締結式は、局長室において、藤島智子さん、上小阿仁支署長等の立ち会いのもと、智子さんの御息である代理人の藤島新さんと局長の間で行われました。智子さんたちは、「今まで、手入れをすることができなかったが、この制度のおかげで間伐できる。」「作業路が入ることも有り難い。今後の成長が楽しみ」などと期待しております。今後とも、民国連携の重要なツールの一つである本協定制度を有効に活用して、国有林の公益的機能の維持増進を図って参ります。

る「イオンモールつがる柏店」において、当センターでの取組を一般の方に知っていただくため「活動展」を開催し、合計で約400名の来場がありました。

この活動展は平成18年度から毎年開催しているもので、展示の内容は、当センターが行っている自然再生活動や林業体験を通じた森林環境教育、インドネシアからのJICA研修生の受け入れなどの様子、センサーカメラで撮影されたツキノワグマやニホンカモシカなどの動物、白神山地の風景やアオモリマンテマやシラガミクワガタなど白神山地の代表的な植物の写真など職員が撮影した写真のほか、今年は世界自然遺産登録20周年事業として白神山地連絡会議が主催した「白神山地世界遺産」20周年フォトコンテストの入賞作品15点も展示しました。

来場者からは、「きれいな写真」「イベントに参加してみたい」という声、「マナーは良くなった？」「遺産地域にはどうやって行くのか？」などの質問があり、世界遺産への関心の高さもみ



活動展の様子①



活動展の様子②

られました。また「続けてもらいたい」「いい写真をありがとう」という言葉をいただき職員の励みにもなりました。

その他、子供たちに自然に興味を持ってもらおうと今年も「クマゲラ」や「カワセミ」などの野鳥の塗り絵や「イタヤカエデ、サクラ、オニグルミの広葉樹材をつかった木工製作をおこない木の良さを知ってもらいました。このように広く一般の方に当セン



塗り絵などを楽しむ子供たち

「みどりの保育園」第13回「木工クラフトもっくん作り」開催

朝日庄内森林生態系保全センター

2月12日（水）酒田市宮海の西荒瀬保育園で木工クラフトもっくん作りを行いました。

当日は快晴の天気の中、年長組園児30名、保育園先生4名、庄内森林管理署4名、朝日庄内森林生態系保全センター4名、総勢42名が参加しました。

最初に保育園の遊戯室で、23日に酒田市希望ホールで開催される幼児音楽の広場で発表する「風が吹いている」の楽器演奏と踊りを披露してもらいました。



指揮にあわせて演奏しています

続いて西荒瀬公民館の体育館に移動して、「もっくん・森のくまさん」の本工クワフト作りを行いました。クワフト作りの体験発表では、今まで一度も発表しなかった園児数名から「作るのが難しかった、とても楽しかった。」と元気に発表してもらいました。今回で今年度のみどりの保育園推進事業は最終日となります。最後に園児の皆さんから「みどりのおじさん、今までいろんなことを教えてくれてありがとう。」という我々へのお礼の言葉を頂き、担当者として何よりも嬉しく今後の業務の励みになりました。



紐の色はどれにしようかな

朝日自然塾6「雪山トレッキングそして囲炉裏で大井沢を楽しもう」を実施しました

朝日庄内森林生態系保全センター

当センターでは、小学生の親子等を対象に森林や自然の働きを体感し、自然とのつきあい方を学ぶ「朝日自然塾」

を、朝日山地森林生態系保護地域及びその周辺地域で実施していますが、25年度最後のプログラムを3月1日(土)に山形県西川町大井沢で行いました。



はじめてのかんじき体験です

当日は、好天に恵まれた中、親子6名の参加者が「自然と匠の伝承館」に集合し、開会式の後、地元大井沢区の方からかんじきの履き方を教わりました。

履き方を習得した後、出発地点の旧小学校へ移動し、そこでかんじきを履いて舎那山に向けて出発しました。子



巣穴を見つけた！

供達がかんじきの歩行にも慣れたところで、圧雪していないところを歩くラッセル体験をしました。

ラッセルの後は、オニグルミの葉痕やウサギに食べられたクリの冬芽の跡などを観察しながら雪の中を進み、「巣穴発見！」とブナの樹洞を発見した子供から歓声が上がると、「ムササビの住み家で時々利用しているよ。」とスタッフからの説明があり、他の子供達も真剣に聞き入っていました。

こうして一行は1キロ弱の道のりを、気持ち良く元気に歩いて行き、ほどなく「舎那山」山頂に到着しました。山頂からは、眼下の大井沢温泉や遠く月山などの山々を眺めることができ、ここで記念撮影を行いました。



「舎那山」山頂で記念撮影

帰り道では、雪と親しむためのネイチャージムをしたり、2m以上の積雪がある中ぽっかりと雪融けた泉で森林の働きについて学びました。

旧小学校へ戻ってきた後、寒河江川の河川敷に移動して、子供達が特に楽しみにしていた「雪滑り」を親子一緒に楽しんでみました。

昼食は伝承館で、大井沢名物の「引き摺りうどん」をみんなで試食し、大鍋で釜茹でした熱々のうどんに外で冷えた体も温めることができました。

午後は、伝承館で割り箸を使ったライフルを作ったり、大井沢の狩人(マタギ)の前田さんからスライドを交えた熊狩り体験談や豊かな山の恵みの話を聞き、参加者やスタッフも熱心に耳を傾けていました。



マタギのお話に引き込まれました

最後には、「大井沢自然博物館」で、学芸員の武浪さんから大井沢で生きている動物や植物についての説明を聞き、剥製・標本類を見ながら楽しく学ぶことができました。

今回の参加者の方からは、「身近な自然の解説を聞くことは初めてで、とてもためになった。」「今回参加できなかった子供を連れて、また参加したい。」と嬉しい感想をいただきました。26年度も「朝日自然塾」の実施を予定していますので、皆さんの参加をお待ちしております。

ハネカクシ

技術普及課長 青山 一郎

雪融けを待ちかねて咲く花々の季節。可憐な姿は人々に春をつげるが、植物にすれば花は受粉の助っ人を呼び寄せるための暖房の効いた食堂で、その存在を主張するための看板だ。花から花へ飛び回る蝶や蜂はよく目につくが、目をこらせば他にもひっそり客がいる。

写真①・②は早春の花キクザキイチゲに集うハナムグリハネカクシ。名前のとおり雄しべに潜り込んでいたりゴマ粒サイズなので、割と常連だが見落とされがち。花粉を貪って受粉を助ける。花と集まる虫達は大体どちらにも美味しい Win-Win の関係だ。



ハナムグリハネカクシ (写真①、②)

ハネカクシはカブトムシの仲間だが、前翅が小さくて腹部を隠しきれず同類には見えない。丈夫な鞘羽をスリム化し、狭い隙間で小廻りが効くよう適応した。後翅は相応のサイズで普通に飛び回るが、着地するとすぐに前翅の下に畳み込むのが名の由来。とても種類が多く生態も多様だが見守る人は少なく、国内でも数百の未記載種がいるという。写真③は肉食のクロサビイロハネカクシ。写真④はキノコ喰いのルリコガシラハネカクシ。春先の虫というわけではないが、雪融直後から見られる早起き者だ。

マイナーなハネカクシの中でも危険な奴として知っていた方が良いものとして、アオバアリガタハネカクシ (写真⑤) がある。攻撃性はないが、体液に皮膚炎をおこす有毒物質ペデリンを含むので、さわらないように注意が必要。身体にとまらたら潰さないようにそっと払いのけるとよい。

青葉の季節、日差しはどんどん高くなり、植物も動物も一度に表舞台に踊り出す。一休みして山の息吹を満喫しようか。



クロサビイロハネカクシ (写真③)



ルリコガシラハネカクシ (写真④)



アオバアリガタハネカクシ (写真⑤)



コアリガタハネカクシ



アカバハネカクシ



新任者略歴紹介

4月1日付け

計画保全部長

せきぐち たかし
関口 高士
(埼玉県)



2・4 農林水産省入省
13・8 北海道局帯広分局企画調整室長
21・12 林野庁職員厚生課総括課長補佐
24・4 林野庁林政課広報官

企画調整課長

かわはら そう
川原 聡
(福岡県)



12・4 農林水産省入省
21・7 トロント日本国総領事館領事
24・8 食料産業局海外展開専門官
25・4 林野庁計画課国際森林減少対策調整官

経理課長

けんもち けんいち
剣持 賢一
(秋田県)



元・4 秋田局計画課採用
11・4 関東局販売課課長補佐
20・4 東北局企画調整室監査官
23・5 東北局盛岡署次長

森林整備課長

ささき よしお
佐々木欣雄
(秋田県)



52・4 秋田局造林課採用
15・4 東北局企画調整室室長補佐
21・4 東北局企画調整室監査官
23・5 東北局遠野支署長

資源活用課長

たかはし まもる
高橋 守
(秋田県)



55・4 秋田局管理課採用
16・4 東北局置賜署次長
21・4 東北局森林整備部企画官
24・7 東北局最上支署長

津軽白神森林生態系
保全センター所長

いしだ かずひこ
石田 和彦
(岩手県)



54・4 青森局計画課採用
18・4 東北局経理課課長補佐
20・4 東北局計画課課長補佐
22・8 東北局下北署次長

朝日庄内森林生態系
保全センター所長

かとう しげよし
加藤 重義
(秋田県)



58・4 秋田局治山課採用
17・10 東北局職員厚生課企画係長
20・4 東北局米代東部署総務課長
22・8 東北局計画課課長補佐

津軽
森林管理署長

さやま みつりの
佐山 光則
(宮城県)



50・4 青森局人事課採用
16・4 林野庁計画課課長補佐
19・4 東北局三八上北署長
24・4 関東局天竜署長

三陸北部
森林管理署長

こにし ひでお
小西 秀夫
(富山県)



58・4 秋田局造林課採用
15・4 林野庁木材課課長補佐
22・3 中華人民共和国国家林業局
24・4 北海道局森林整備第1課長

三陸中部
森林管理署長

はしづめ かずあき
橋爪 一彰
(静岡県)



6・4 農林水産省入省
20・8 近畿中国局企画調整室長
22・4 外務省国別開発協力第1課課長補佐
24・4 林野庁木材産業課課長補佐

盛岡
森林管理署長

しみず くにお
清水 邦夫
(秋田県)



55・4 農林水産省入省
11・4 林野庁林産課課長補佐
15・8 秋田県農林水産部森林技監
23・4 林木育種センター海外協力部長

岩手南部
森林管理署長

いけだ さとし
池田 敏
(秋田県)



50・4 秋田局作業課採用
19・4 東北局湯沢支署長
21・8 北海道局樺山署長
24・4 関東局樹倉署長

遠野支署長

せんぼくや あきら
仙北谷 彰
(秋田県)



54・4 秋田局計画課採用
16・4 東北局職員厚生課課長補佐
21・4 東北局盛岡署次長
23・5 東北局企画調整室監査官

米代東部
森林管理署長

つたむら みつよし
傳村 充善
(長野県)



50・4 長野局臼田署採用
18・4 四国局森林整備課長
23・10 中部局販売課長
25・4 中部局保全課長

上小阿仁
支署長

よねざわ みのも
米澤 実
(秋田県)



56・4 秋田局職員課採用
18・5 東北局下北署次長
21・4 東北局企画調整室監査官
25・4 東北局総務課企画官

秋田
森林管理署長

かわせ まさてる
川瀬 政輝
(熊本県)



49・4 熊本局総務課採用
15・4 林野庁管理課課長補佐
18・4 東北局米代東部署長
24・4 近畿中国局岡山署長

湯沢支署長

かんの としひろ
菅野 敏裕
(岩手県)



54・4 青森局作業課採用
20・4 東北局国有林野管理課課長補佐
22・4 東北局企画調整室監査官
24・4 東北局山形署次長

庄内
森林管理署長

いまき かずき
伊巻 和貴
(栃木県)



60・4 農林水産省入省
13・1 林野庁林政課課長補佐
19・4 大臣官房環境政策課課長補佐
24・2 復興庁岩手復興局参事官

山形
森林管理署長

たかの けんいち
高野 憲一
(神奈川県)



57・4 農林水産省入省
13・1 林野庁森林保全課課長補佐
18・4 国際協力機構技術審議役
24・4 林野庁経営企画課企画官

最上支署長

ただ ひろゆき
多田 弘之
(熊本県)



54・4 熊本局林業課採用
18・4 四国局指導普及課長
21・4 林野庁職員厚生課課長補佐
24・8 近畿中国局指導普及課長



今何をすべきか

三八上北森林管理署
森林官（奥瀬担当区）

一重 喬一郎



平ノ沢林道から望む八甲田山

私が勤務する三八上北森林管理署奥瀬森林事務所は十和田市街から奥入瀬溪流・十和田湖へ向かう途中の国道102号線沿いに位置し、八溪山・十和田森林事務所、法量森林事務所との合同事務所です。

奥瀬森林事務所が担当する国有林は十和田市南西部の山林5,100haに三沢市沿岸の海岸林300ha弱を加えた、およそ5,400haです。そのうちスギやカラマツなどを植栽した人工林がおよそ60%を、ブナ、ミズナラ、サワグルミなどの落葉広葉樹からなる天然林がおよそ

40%を占めています。

私たち森林官は、森林の状況の調査や、間伐などの実施状況のチェックのために毎日のように担当する国有林へ出かけていき、山の中を歩きます。その際には、四季折々の美しい風景を目の当たりにすることも多く、仕事の中の楽しみの一つであると同時に、森林を健全に維持していく重要性を実感しています。

三沢市沿岸の海岸林は、強い海風や塩害から住居や畑を守るために、海からの潮風に強いクロマツが古くから植栽されてきました。東日本大震災から3年余りが経過した現在、津波により海水を被った影響などにより、当時は無事



林床のアジサイ



紅葉した落葉広葉樹林

だったクロマツが枯死する被害が徐々に広がっています。状況に応じて、クロマツの苗木を新たに植林したり、残ったクロマツを適度に間引くことで海岸林を健全に維持できるよう対策を講じ、実施しているところです。

木材は住宅や家具、紙などの材料で人々の生活に欠かせないものです。しかし、例えばスギの苗木を植えてから収穫できるような森林になるまでには早くとも40〜50年程かかり、それまでも雑草の刈払いや間伐などの手入れが必要です。今の人々が困らないように森林を健全に維持し、生活に必要な木材を供給していくことは重要ですが、それと同時に、50年先、100年先に生きる将来の人々も困らないように“今何をすべきか”考えながら、森林官の仕事に取り組んでいきたいと考えています。



蔵王御釜

お か ま

宮城県蔵王町



御釜

御釜（別名、五色沼）は、宮城県と山形県の県境に位置し、蔵王連峰（蔵王国立公園）の熊野岳、地藏岳、刈田岳などの山々を有する火山群の中の一つの五色岳の中であり、噴火後の火口に水がたまって出来た火口湖で、湖の大きさは、直径約330m、最大水深約30mを有します。天候等諸条件によって湖水の色がエメラルドグリーン調やより色調に変化が見られることから五色沼とも呼ばれ豊かな表情を見せてくれる蔵王のシンボルです。

御釜は、宮城県の代表的な観光スポットで、蔵



芝草平

王町の遠刈田温泉から約40分、蔵王エコーラインから蔵王ハイライン（有料道路）を経由し駐車場に車を止めると、展望ポイントまではバリアフリーとなっていて山歩きに自信がない方でもその雄大な眺めを見ることが出来ます。

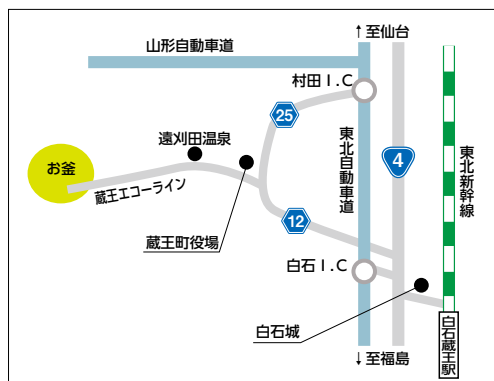
また、御釜の周辺には、高山植物が数多く自生しており、蔵王エコーライン沿いからは『こま草』『ハクサンチドリ』『リンドウ』等の花を見ることが出来ます。

さらに、蔵王連峰の峰を刈田岳から南に屏風岳に向けて縦走すると、別名“お花畑”と言われている『芝草平』があり、多種類の高山植物が生息する湿地帯で、雪が残る6月上旬から夏真っ盛りの8月上旬まで、上品で可憐な花を次々に鑑賞することが出来ます。

● 交通アクセス

・ 東北自動車道村田ICもしくは白石ICから車で約1時間

交通関係：山頂駐車場まで
自動車利用
白石蔵王駅より110分
村田 I.C より80分
白石 I.C より80分



● 東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

